

会 議 等 結 果 報 告 書

会議区分	<u>会 議</u> ・ 打合せ ・ 協 議	文書番号	安政推第 号
		決裁期日	令和6年7月1日
名 称	令和7年度 第1回安平町未来創生委員会		
日 時	令和7年6月27日 午前・ <u>午後</u> 1時30分～3時40分		
場 所	総合庁舎 大会議室		
出 席 者	委 員 未来創生委員会委員12名 外部有識者 2名 安 平 町 (政策推進課) 課長以下計4名		
会議概要	1 開会（進行：課長） ◇過半数以上の参加により委員会が成立していることを宣言 2 委員長挨拶 ～省 略～ ◇昨年度の各種計画の進捗状況のふりかえり、新しい総合計画の策定に向けて、さらには総務課からも案件があるのでご意見等いただきたい。 3 議事 (1) 安平町未来創生委員会事務局員の変更について【P1】 ◇資料に基づき説明 →新着事務局員挨拶 2名 ◇質疑応答要旨 <質問者> ・なし (2) 安平町未来創生委員会の役割からみる本日の会議主題【P2～5】 ◇資料に基づき説明：事務局 ◇質疑応答要旨 <質問者> ・なし (3) 安平町デジタル・トランスフォーメーション（DX）推進計画【2.0版】の策定【別冊】 ◇資料に基づき説明：総務課 ◇質疑応答要旨 <A外部有識者> ・本計画は、総合計画に紐付く、傘下の計画か？ ・また、今回は改訂か？ <総務課> ・いずれも、お見込みのとおり。DX推進計画は、上位計画である総合計画の傘下（下位個別計画）として位置付けられている。 <A委員> ・新規導入システム等の9つについて、駆け付け窓口・書かない窓口・来庁者AI分析・AK電話・自動精算機これらはどういったものか？ <総務課> ・自動精算機： コンビニのセミセルフレジのように、職員が投入し、住民がお金を投入して自動で計算・精算する仕組み。 AI電話： 自動音声・自動アナウンスを活用したナビダイヤルのようなイメージ。来庁		

	者が用事に応じて番号を押すことで、事前に窓口案内を行うシステム。休日や夜間の案内にも対応。 駆け付け窓口：住民が役場庁舎（早来や追分総合支所）に移動するのではなく、職員が住民のいる庁舎（または地域）に出向いてサービスを提供する仕組み。住民の移動負担を軽減。 書かない窓口：マイナンバーカードと連携させ、カードから情報を自動入力することで、住民が書類に記載する手間を省く仕組み。サービス時間の短縮を目指す。 来庁者AI：個人情報保存せず、来庁者の来庁日時や時間帯を記録・分析。例えば、待ち時間が長い時間帯には職員配置を増やすなど、人的資源を効率的に調整するために活用したい。
	< B 委員 > ・住民サービスの向上と、バックヤード（職員業務の効率化）の2点あると思うが、そんなに混雑していない安平町役場窓口において、どれだけ効果があるか？
	< 総務課 > ・現状、特に転入・転出の多い3月、4月を除けば、日常的に順番待ちが発生している状況ではない。 ・ただ、現状だけでなく、10年後、20年後の人口減少に伴う職員減少を想定し、電子化を進める必要があると考えている。 ・現在は国の交付金があり、町の持ち出しがほとんどなく整備できる有利な財源があるため、今のうちに整備を進めておきたい。 ・職員の業務負担軽減、デジタル活用ができる住民の手続きの円滑化に加え、デジタル活用が難しい住民に対しては、削減できた人的資源を対面サービスに回し、誰もが同等のサービスを受けられるようにするという目的がある。
	< B 外部有識者 > ・「駆け付け窓口」と「書かない窓口」へ導入するデジタルはどういった部分か？ ・また、これらと北海道の北見市や札幌市が先行して実施しているようなワンストップ窓口との関係性は？ ・さらにそのワンストップ窓口の関係は、本計画に入っているか？
	< 総務課 > ・駆け付け窓口は、直接的なデジタル技術とは異なり、デジタル技術で職員の業務時間を創出し、より丁寧な対面サービスに充てることで、アナログとデジタルを融合させたサービスを目指している。 ・書かない窓口は、マイナンバーカードによる情報自動入力で、サービス時間の短縮効果が期待される。 ・企画提案の内容には、住民が移動せずに1箇所ですべての手続きが可能な「どこでも窓口」（職員の交代型）も含まれており、北海道の北見市や札幌市が先行して実施しているワンストップ窓口のような取り組みも視野に入っている。
	< A 外部有識者 > ・具体的実装のタイミングは？ ・北見市の事例ではワンストップ窓口の実現に約10年を要したように、業務の流れや仕組みの改革が必要なため、時間がかかる。これは自治体の規模だけでなく、仕組みの問題が関係している。
	< 総務課 > ・実施時期は、少なくとも2045年（20年後）までには実施すべきと考えており、第3次総合計画内での実施を目指している。
	（4）各種計画の進行管理について～①町政報告【P 6～13】 ◇資料に基づき説明：事務局 ◇質疑応答要旨
	< C 委員 > ・期成会要望事項として国道234号交通安全対策についてはどんな内容か？ ・こまめな草刈りについてもお願いしたい。

	<政策推進課> ・安平から早来方面の整備要望が進められており、特に令和2年の事故発生場所への対応として、中央分離帯やスピード抑制事業の整備を要望している。 ・追分方面の歩道は一部未整備だが、町として諦めずに要望している。 ・国道沿いの草刈りについては、国道管理者の管轄であり、こまめな対応を要望しているものの、リアルタイムでの対応は難しいことにご理解いただきたい。 (4) 各種計画の進行管理について～②第2次安平町総合計画後期基本計画のR6年度進捗状況【P14～28】 ◇資料に基づき説明：事務局 ◇質疑応答要旨 <D委員> ・町内医療機関の確保と休日・夜間救急体制への対策について、具体的に進んでいくのか？ <政策推進課> ・休日夜間の体制については、具体的な手立てはまだ出ていないのが現状 ・町内の医療機関の確保状況は、歯医者者の撤退により1件減少している。 <B委員> ・グリーンツーリズム関連施設について、以前より要望したフットパスの地図が観光協会により作成され、非常に立派で綺麗に仕上がったことについて報告したい。 <政策推進課> ・指標が「施設数」であるため、地図作成は数字上には現れないものの、成果として大変うれしく思う。 <E委員> ・広報動画の制作本数と再生回数について、政策動画の制作本数（年間3本）は多いが、再生回数が伸び悩んでいるように見えるが？ <政策推進課> ・事務局の資料ミスがあり、制作本数に比例して増加傾向にある状況 <C委員> ・地域サポート制度（全自治会への職員配置）について、全自治会に職員が配置されているわけではなく、配置されている自治会でも、職員と住民がお互いに遠慮して声かけしにくい実態があるのではないかと？ <政策推進課> ・次期総合計画でこの制度の存続の是非を検討する課題の一つであると認識している。 <A外部有識者> ・町内会・自治会加入率の低下について、町内会加入率の低下について、その原因分析により対策を講じていく必要があるのではないかと？ <C委員・B委員> ・両委員より、各所属自治会における現状をご報告いただいた。 <B外部有識者> ・介護予防の参加者数増加しているが、その要因は？ ・また、健診受診率は低いとその理由は？ <政策推進課> ・介護予防については、体組成計「インボディ」の導入など、数値化により参加者のモチベーションを高める取り組みが功を奏したと考えている。 ・健診受診率については、町外（札幌の対がん協会など）での受診者も含まれる数値である。遠方での受診は負担が大きいが、バスを出すなど、年に複数回の対応が行われている。 (4) 各種計画の進行管理について～③デジタル田園都市国家構想総合戦略のR6年度進捗状況等【P29～53】
--	---

◇資料に基づき説明：事務局

◇質疑応答要旨

< A 外部有識者 >

・国から採択を受けた3つの事業の進捗状況について、今年度開始された事業と、残り2つの継続事業の進捗状況についてはいかがか？

< 政策推進課 >

・KPIを見ても比較的順調に目標に到達するべく推移しており、現時点では不調な指標はない。

(5) 第3次総合計画策定【P 54～64】

◇資料に基づき説明：事務局

◇質疑応答要旨

< B 委員 >

・「全世代の町民の参画と共同」という理念が実質を伴うか疑問である。
・人口減少により、役場職員も半減する時代が来ると考えており、町全体で協力しないと町が回らなくなるという危機感がある。
・また、次期計画策定に辺り、いくつか提案したい。

①公園の草刈りの事例

町内会の有志が高齢化で担い手が減り、若い現役世代に協力を頼むも、町内会がボランティアの活動を報いるための資金支援を行政に申請したが却下された。今後はコミュニティのあり方、住民参加の形を再考すべき。

②社会的企業の創出

行政業務の一部を社会的企業に移管することで、低コストで効率的な業務遂行、雇用創出、人材誘致につながる。

③町内での電力循環

電気代など町外へ流出するお金を町内で循環させる仕組み（ゴミ処理施設からの発電、リサイクル事業など）を検討すべき。

④追分地域の活性化

高校に地域コース、進学コース、学寮などを設置し、地元の中中学生だけでなく町外からの生徒も呼び込み、小中学校で起こっている社会増の流れを高校にも波及させる。さらに、高校卒業後の定住促進のため、通信制の教育大学などを検討すべき。

< 政策推進課 >

・人手不足・財政難については、将来的に職員確保が困難になるのは間違いない（現状、建設技術者の募集難）。デジタル化を進めることで、職員が減っても対応できる体制を構築中であり、デジタルとアナログを融合させた体制を目指している。

・社会的企業については、他の自治体で、町の事業を社会的な企業ではないが専門事業者に委託する取り組みが始まっており、職員が減った場合の受け皿として民間活用は有力な手段であると認識している。

・電力循環については、町内に新たなゴミ処理施設などができた場合は発電も可能であり、住民への電力供給で電気代削減も考えられるが、現状は予算がなく誘致の段階で検討が必要。

・高校改革（追分の活性化）については、教育委員会で高校の活性化に取り組むプロジェクトが進んでおり、小中連携も視野に入れている。

4 その他

◇退任するA委員・B委員よりご挨拶

B 委員： 10年間、移住者の代表として委員会に参加し、楽しませていただいた。自身の経験を踏まえ、これからは新しい移住者の方々に新たな発想で貢献してほしい。

A委員：4年間委員を務め、このような会議は初めての経験であり、資料を読み込み質問することなども含め、多くのことを勉強させていただいた。自身も新しい方々に経験を譲りたいと考え、今期で退任するが、今後も直接意見を伝えたい。

◇その他として、A外部有識者よりコメント

- ・安平町は、チャレンジ精神を持って様々な取り組みを進めている。
- ・今後の地域運営においては、役場だけでなく町民・商工メンバー・民間企業が一体となることが不可欠である。
- ・デジタル化は想像以上のスピードで進んでおり、住民全員がデジタル技術を「面倒なもの」と捉えるのではなく、「生活を楽しむもの」として捉え、積極的に活用方法を考えていくと良いと考える。
- ・縮小していく社会の中でどう生きるか、皆で考えていくことが重要であり、このような議論の場が今後も継続されることを期待している。

◇オンライン参加のF委員よりチャットでコメント

- ・総合計画に基づく各種政策がほとんどの領域でおおむね順調に進捗している様子を知ることができた。
- ・安平町に携わるすべての役場職員のみなさま、町民のみなさま、民間事業者のみなさまのご尽力あってのこと。

◇オンライン参加のG委員よりチャットでコメント

- ・現状や、自身が複数の協議会や団体等の活動等を通して感じることをいくつかまとめさせていただき、後ほどデータで共有させていただきたい。

◇次回任期や次回開催について事務連絡

7 閉会 (15 : 40)

以上